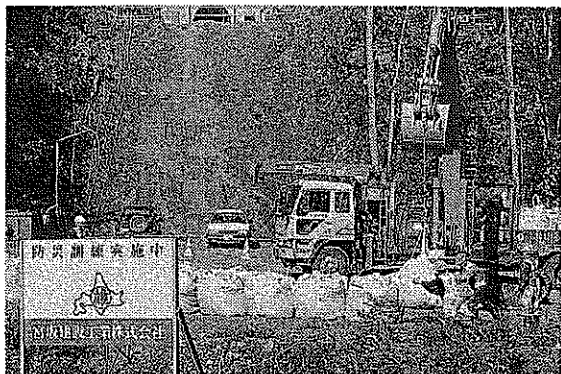


# 北海道建設新聞

## 十勝沖地震を 教訓に防災訓練

宮坂建設工業札幌支  
店が総富地トンネルで

【岩見沢】いざというときの自然災害に備えて、宮坂建設工業(本社・帯広、宮坂寿文社長)札幌支店は26日、新十津川町の総富地(そつち)トンネル現場事務所で、防災訓練を行った。河川はんらんを想定した水防訓練や、心肺停止に陥った人の蘇生(そせい)術を練習し、万が一の事態対応のうを河川敷に積む水防訓練を展開した。



に向け、万全を期した。2003年9月26日に発生した十勝沖地震を教訓と

し、同社では毎年9月26日を「防災訓練の日」に制定。災害の危機が迫ったときや

災害時に現場作業員が取るべき処置方法を普段から学んでおく必要性を感じ、帯広本社では3年前から防災訓練を実施している。今年からは帯広本社に加え、札幌支店も訓練するこ

に会場を用意し、独自に訓練を行った。訓練会場となった総富地トンネル現場事務所には、福田信行執行役員支店長をはじめ、斎藤宏明現場所長、同社札幌支店営業部の阿部徹郎氏ら18人が参加。午前は大雨による河川のはんらんを想定した水防訓練を展開。袋当たり1・7ト前後ある土のう24袋を、クレーンが付いた重機を使ってトラックの荷台から降ろし、河川敷に置いて水害から守る訓練を実施した。午後は滝川地区広域消防事務組合の協力を得て、普通救命講習を受けた。